

平成18年第1回 三重県議会 定例会

平成18年
2月20日～3月23日

新年度予算や県政の諸
課題などについて議論



平成十八年第一回定例会を、二月二十日から三月二十三日まで、三十二日間の日程で開催しました。

今回の定例会では、「平成十八年度三重県一般会計予算」ほか九十九件の議案を審議しました。

二月二十日の開会日には、議案七十三件を上程し、知事から提案説明が行われました。そのうち議案二件は、緊急を要することから、委員会に付託し詳細な審査を行い、原案どおり可決しました。さらに、議員提出議案一件を上程し、原案どおり可決しました。

三月三日には、追加議案二十二件を上程し、知事から提案説明が行われました。二月二十四日には代表質問、また、二月二十八日、三月二日、六日及び八日には一般質問を行い、十八名の議員が質疑・質問に立ちました。

三月十日には、予算決算特別委員会総括質疑を開催し、付託された予算及び予算関連議案について、質疑・質問を行いました。

十三日及び十四日には、予算決算特別委員会の各分科会を開催し、予算議案等について詳細な審査を行いました。また、十五日及び十六日には、各常任委員会を開催し、付託議案等について詳細な審査を行いました。さらに、二十日には、予算決算特別委員会を開催し、議案の審査を行いました。

閉会日の二十三日には、上程した知事提出議案九十三件を原案どおり可決しました。また、追加議案二件を上程し、知事から提案説明を受けた後、所管する委員会に付託し詳細な審査を行い、原案どおり可決したほか、議員提出議案二件を上程し、原案どおり可決しました。さらに、意見書案四件、決議案一件を可決し、閉会しました。

代表質問

「このふるさと三重」への取り組み
式年遷宮を活用した集客交流を

中村進一議員
(新政みえ/旧伊勢市選出)

問 知事は、来年度の重点的な取組の一つとして、平成二十五年の第六十二回式年遷宮を視野に「このふるさと三重」づくりをテーマとした集客交流・文化発信の中長期戦略について、調査・検討を行うと今定例会の開会日に述べました。

三重県は集客交流を目指し、前々回は三重国体、前回はまつり博の開催など、二十一年に一度の御遷宮にあわせ、様々なプロジェクトを行ってきたところで、今回の御遷宮でも「観光とタイアップした集客交流の仕組みをつくっていくべき」と以前に提案しましたが、今回の説明は、このような大規模プロジェクトの想定しているのでしょうか。現段階での考えをお示しください。



御樋代木奉曳式

答 集客交流や文化発信を進めるため、式年遷宮も視野に入れた中長期戦略について調査し、みえの文化力を生かす先導的な取組にしたいと考えています。

この調査の趣旨は、三重の持つ豊かな文化資源を生かし、住む人も訪れる人も心が元気になる「このころのふるさと三重」

づくりに取り組もうとするものです。御遷宮翌年のおかげ年などに当たる二〇一四年をターゲットに、また、宇治橋渡始式や熊野古道世界遺産登録五周年などに当たる二〇〇九年を中間的な節目と考えています。戦略調査にあたっては、新しいツーリズム、地域づくりや文化振興など広く検討しますが、効果的なイベントの展開も検討したいと考えています。

● その他の質問事項

○ 「三重の元気づくり」にむけた知事の政治姿勢について 他

転換期の農政対策について

三重県型の農業政策を

永田正巳議員
(自民・無所属・公明議員団/旧四日市市選出)

問 国は昨年十月に、新たな食料・農業・農村基本計画を受けて「経営所得安定対策等大綱」を決定しました。この大綱で、全農家を対象としてきた品目ごとの価格対策から、担い手に限定して助成する所得対策へ政策転換することとなりました。

転換への対応は、大規模な農業が進んでいる地域ではさほど困難ではないと思いますが、兼業農家主体の本県では容易に対応できないと心配しています。対象農家とそれ以外の農家との所得格差が生じ、多種多様な農家で形成されている本県の農業の実態にそぐわない恐れもあります。

そこで、今後、どのような農業を目指して三重県型の農業政策を進めていくのか、知事の所見をお伺いします。

答 県民に価値あるサービスを提供する農業者を担い手として位置づけ、ブランド化、地産地消運動の展開や